

池田文書の研究(55)

著名人の書簡(経歴判明の人を含む)(その5)

池田文書研究会

[151] 鶴田 朗・江木保夫の書簡

鶴田 朗は大審院検事長鶴田^{あきら}皓の親族。江木保夫は鶴田皓の次女の夫で、我国写真撮影技術の先覚者。

1 明治21年4月16日 (2060)
兼テ御世話相成候鶴田 皓義、病氣之所養生不相叶本日午後一時三十分薨去候間、不取敢此段御報知申上候也

追テ来ル十八日午後二時出棺谷中天王寺墓地へ埋葬致候

廿一年四月十六日 右親族 鶴田 朗
江木保男

池田謙齋殿

一、同九時三十分 小便快通

一、同九時三十五分 粥汁 一椀

得能通昌

[153] 富小路敬直^{とみのこうじひろなお}の書簡

富小路敬直は公家華族。敬直の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に1通掲載に付省略。

[154] 外山正一の書簡

外山正一は東京帝国大学総長。正一の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に3通掲載、未掲載分を記す。

1 明治 年5月23日 (2152)

拜啓、陳は愚妹儀今朝より持病の胸痛にて難儀致候間、小原君にても御見舞被下候様奉願候也

五月二十三日 外山生
池田先生

[152] 得能通昌の書簡

得能通昌は嘉永5年鹿兒島に生まれる。大蔵省印刷局長。大正2年没。享年62。(1852-1913)

1 明治 年 月 日 (3529)

二月廿八日午後六時ヨリ

一、后六時十五分 体温三十九度六

一、同八時十五分 粥 二匕

ソップ 半椀

一、同九時四十分 粥 一椀半

ソップ 一椀

一、同十時 体温三十八度

一、同十一時二十七分 注射薬施用

一、午前零時 体温三十九度二

一、同二時十五分 体温三十八度八

一、同三時三十分比より五時比迄稍睡眠

一、同六時 体温三十八度二

一、同八時四十分 粥 四匕

2 明治 年6月22日 (2153)

口上

昨夕も今朝も三十六度九分ニ御座候

六月廿二日 外山
池田様

[155] 豊川良平の書簡

豊川良平は明治期の實業家。嘉永5年高知藩医家に生まれる。岩崎弥太郎の従弟。三菱財閥の銀行経営等に携わる。大正9年没。享年69。(1852-1920)

1 明治 年10月29日 (2150)

拜啓、偕陳は度々御見舞被遣忝奉拜謝候、然ニ病

人本日茅町え帰宅仕候間、明州日午後一時頃御来臨被下候様拝承仕候処、佐藤先生同日四時過御来診被下候筈ニ御座候ニ付、右同時ニ御来診相願度、乍失敬以書中御内願得貴意度、草々敬白

十月廿九日 豊川良平
池田様

2 明治 年1月24日 (2657)

過日来御多忙中日々御往診被成下奉謝候、陳は社員之者今一応佐々木先生ニ御診断相願候ては如何との事ニ付、過日先生之御書翰を相願、昨日佐々木氏へ参堂右御書翰相呈候処、本日午後八時ニ御来診之御承諾御坐候、就ては甚自由ケ(欠)敷儀ニ御坐候とも、何卒御操合を以八時・九時之間ニ御来診被成下度伏て御依頼申上候、拜具

一月廿四日 豊川良平
池田謙齋様 貴下

[156] 豊島海城の書簡

豊島海城は東大医学部学務課勤務。

1 明治 年10月15日 (2149)

拜呈、然ハ授与式之節、礼服用之儀ハ素より当然之事ニ候得共、右ハ御伺出相成居候手續書ニ記載相成候ニハ及間敷に付、其辺訂正之上指合可相成旨御通知可申之処、過刻拜晤之節、礼服用之儀不都合之様申述候ハ小生之誤認ニ候間、右様御承知被成下度候、右御断旁得貴意候也

十月十五日 学務課 豊島海城
大学医学部総理 池田謙齋殿

[157] 鳥尾小弥太の書簡

鳥尾小弥太は明治期の陸軍軍人。小弥太の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に1通掲載に付省略。

[158] 中 定勝の書簡

中 定勝は天保11年大坂に生まれる。大審院判事を勤める。明治36年没。享年64。(1840-1903)

1 明治 年5月20日 (2157)

謹啓、時下薄暑之候ニ相向候処、益御清穆奉拝賀候、其後は如例御伺不申上失敬罷在候条御海恕被成下度願上候、然は此鯛屋佐平ト申葉舗小生懇意ニ有之候処、兼て貴館へ御出入相願度希望罷在り小生へ及依頼候ニ付、乍失敬差出候間何卒以後宜敷御高庇御加被成下度此段奉希上候、草々頓首

五月廿日 中 定勝
池田先生

2 明治 年4月5日 (2188)

以寸楮願上候、時下春暖之好時節倍御清穆奉拝賀候、然は其後は例之如疎音ニ打過候条御海恕可被下候、扱て甚御多用中恐縮之至ニ御座候得共、小生懇意先之小兒大患ニ罹り一同心配罷在、国手之御診察相願度旨小生迄ニ依頼候ニ付、何卒御繰合之上御遠方ニ御座候得共、別紙姓名之者方へ御苦勞被成下度奉希上候、余は万讓拜青、草々頓首

四月五日 中 定勝
池田先生 玉几下

[159] 中江篤介(兆民)の書簡

中江篤介は明治期の思想家・民権運動家。篤介の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に1通掲載に付省略。

[160] 長岡護美の書簡

長岡護美は熊本細川家の分家としてオランダ・ベルギーの公使を勤める。護美の書簡は日本医史学雑誌第55巻第4号に6通掲載に付省略。

[161] 中川の書簡

中川は香港一等領事官。

1 明治27年9月13日 (2167)

電報

東京 陸奥外務大臣 在香港 中川一等領事
千八百九十四年九月十二日午後三時卅七分発
同 同 十三日午後十時五分着

九月一日以来香港ニ於ケル「ベスト」新患者式名ノミ治療中十式名

（注）明治27年香港に於いてペスト発生により同年6月より8月迄東大内科教授青山胤通が香港に派遣された。

[162] 長崎省吾の書簡

長崎省吾は嘉永5年鹿兒島藩士家に生まれる。宮内大臣秘書官、式部官、宮中顧問官歴任。

1 明治15年12月12日 (2207)
布哇公使過日病氣中度々御来診御尽力之段深く感鳴致シ候、就ては聊右御礼之驗迄ニ白縮緬式疋進呈致度旨同公使より申聞候ニ付、則為持差進候間御受納被下度此段得貴意候、敬具

十五年十二月十二日 長崎省吾
一等侍医 池田謙齋殿

2 明治 年3月11日 (2206)
拝啓、陳は来ル十九日宮内大臣ヨリ晚餐差上度旨御案内被申進候ニ付テハ当夜フロックコート御着用相成度此段為念申進候、敬具

三月十一日 宮内大臣秘書官 長崎省吾
池田侍医局長官殿

[163] 中島正佐の書簡

中島正佐は中島佐衡の親戚。中島佐衡は幕末新政府の軍艦を率いて功あり。その後横須賀造船権頭兼製作権頭・工部少書記官歴任。明治22年没。享年54。（1836-1889）

1 明治22年6月13日 (2174)
中島佐衡事病氣之處療養不相叶本日午前十一時被死去候、此段為御知仕候也

廿二年六月十三日 親戚 中島正佐
竹田実行

池田謙吉殿

来ル十六日午正（欠）本郷弓町二丁目三十四（欠）出棺仏式ヲ以谷中墓（欠）埋葬ス

（コンニャク版印刷）

[164] 長野文炳の書簡

長野文炳は大阪府士族。大審院判事を勤める。

明治15年11月16日没。

1 明治 年10月16日 (2211)

拝啓、先日相戴候御方書中鉄キニーネ之常服薬老日ノ量七滴ハ半オンス位ノ水ニ和シ一日三回ニ服シ候哉、又ハ一回ニ服用候哉、此段先生へ御伺之上御答被下度奉希候、尤御答書ハ明朝頂戴之為メ使ノ者差出申候、頓首

十月十六日 長野文炳 拝

池田先生

御診察処 御中

2 明治 年5月12日 (2212)

拝啓、拙生疾患職務ヲ離レ永ク療養ヲ加ルニ非レハ快愈ニ至リ難ク候哉、此段先刻伺落候間以書中奉伺候、貴答使之者へ御仰聞度奉希候、頓首

五月十二日 長野文炳 拝

二白、御診察料奉呈候、御収納奉仰候

3 明治 年10月12日 (2213)

拝啓、昨日ハ御来診被成下奉感謝候、陳は拙生熱海ニ赴キ候ニ付衙署へ差出候願書ニ相添へ度候間、熱海礦泉ニ浴治可然云々ノ御診断書何卒御作製被下度奉希候、兎角飲食不消化ニ付左ノ薬 ベプシネ 半オンス、稀塩酸 一オンス半、単舎利別 五オンス、右二日ノ量毎食後服用、是迄用ヒ来候処熱海浴治中モ持長服用可然候哉、且ツ稀塩酸ヲ外薬ニ換へ候事ハ出来難候哉、奉伺候、左ノ品ハ食（欠）テ害無之候哉、奉伺候、無害（欠）テモ御記シ可被下候、芥子 松魚 わさび まぐろ 大根おろし 鰻魚 醋 蝦、礦泉ニ浴シ候ハ隔日ニ老度位ニテ可然候哉、是又奉伺候、頓首

十月十二日 長野文炳 拝

池田先生 御侍史中

[165] 長松 幹の書簡

長松 幹は明治期修史局長を勤める。幹の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に1通掲載に付省略。

[166] ^{なかのみかど}中御門家扶の書簡

中御門家は公家華族。家扶の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に2通掲載に付省略。

[167] 中村 ^{さとる}覚の書簡

中村 覚は明治期の陸軍大将。覚の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に1通掲載に付省略。

[168] 中村 ^{まさなお}正直の書簡

中村正直は帝大教授。スマイルズの「西国立志編」翻訳者。正直の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に5通掲載に付省略。

[169] 中山讓治の書簡

中山讓治は天保10年生まれ。宮内権大丞を勤め、其後ハワイ国の日本移民監督総監、東洋移民会社設立等に関わる。明治44年没。享年73。(1839-1911)

1 明治 年3月10日 (2193)
拜啓、然は亡妻三十五日相当り候ニ付、粗末之蒸物申付候間進呈仕候、右申上度如此御座候、頓首
三月十日 中山讓治

2 明治 年7月30日 (2194)
(封筒表) 池田謙齋様

浜町一丁目十四番地 中山讓治 (ゴム印)
(封筒裏) 封印

本日ハ御安着奉賀候、過刻ハ不相替失敬御仁恕可被下候、此品甚如何ニ御坐候得共、御着祝之寸志迄ニ拜呈仕候、御笑味可被下候、匆々頓首
七月三十日 讓
謙齋賢兄

3 明治(14)年4月26日 (3222)
益御清祥奉賀候、陳新田義雄⁽¹⁾義何分熱氣強甚不宜容体之趣ニテ、同人老母始家内一同心配罷在候間、御繁忙ニハ可被為在候得共、今日御繰合御來車御診察被成下度懇願仕候、御許容被下候様小生よりも奉希候、右願事早々不一
四月廿六日 讓治

池田賢台

(1) 新田義雄 明治期官僚。明治8-9年香川県令。明治14年5月3日没。享年39。(1843-1881)

[170] 中山 ^{たかまる}孝麿・家扶の書簡

中山孝麿は公家華族。孝麿・家扶の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に4通掲載に付省略。

[171] 永山 ^{もりてる}盛輝の書簡

永山盛輝は新潟県令を勤める。盛輝の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に2通掲載に付省略。

[172] 梨本宮家家扶・家従の書簡

梨本宮家は皇族。家扶・家従の書簡は日本医史学雑誌第54巻第1号に6通掲載に付省略。

[173] 鍋島 ^{なおいろ}直大・^{なが}榮子の書簡

鍋島直大は旧佐賀藩主。榮子はその妻。直大・榮子の書簡は日本医史学雑誌第55巻第4号に4通掲載に付省略。

[174] 鍋島 ^{みき}幹の書簡

鍋島 幹は明治期青森・広島の県知事を歴任。幹の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に1通掲載に付省略。

[175] 榑崎 ^{ひろなお}寛直の書簡

榑崎寛直は天保12年山口萩藩に生まれる。長野県令・函館控訴院検事を勤める。明治28年没。享年55。(1841-1895)

1 明治14年4月28日 (2330)
衛第弐拾七号

当縣医学校第三期生

大日向隆治

谷中正勝

右者今般御部へ入学為致度候ニ付当校教員今井政公附添出京為致候ニ付当期御試験之上御差支無之

候ハ、入学御差許相成度此段及御依頼候也

明治十四年四月廿八日

長野県令 榑崎寛直 印

大学医学部総理 池田謙齋殿

(版心・長野県用箋使用)

[176] 奈良原 繁の書簡

奈良原 繁は明治期の地方行政官僚・政治家。繁の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に3通掲載に付省略。

[177] 西^{なりのり} 成度の書簡

西 成度は天保6年肥前平戸に生まれる。幕臣。東京控訴院長を経て明治23年大審院長。明治24年没。享年57。(1835-1891)

1 明治 年7月16日 (2356)

霖雨之季節ニ御座候処、益御安康奉拝賀候、然は小生縁者麴町区飯田町三丁目十八番地石橋政齋儀去ル十二日来病臥、原圭仙氏診断ニテハ盲腸焮衝⁽¹⁾と申事にて同氏専ら施治相成居候、老母等頻りに心配罷在候間一昨日老台之御苦勞相願度御玄官^(ママ)迄参上候処、前夜宮内省御当直之趣いまた御帰邸不被為在候付御門弟へ委詳相願置、今朝尚ホ同方ヲ尋ね候にいままた御枉駕不被下由、万一御申次落相成居候哉も難斗、就て更ニ奉願候ハ上文之次第ニ付泥濘之頃恐入候得共御繰合を以今日中ニも御見舞被下度、右御許容被下候得ハ難有仕合奉存候、勿々頓首

七月十六日

西 成度

池田老台 侍史

(1) 焮衝^{きんしょう} 炎症の事。

[178] 錦織久隆・教久^{にしごりひさたか ゆきひさ}の書簡

錦織久隆・教久は公家華族。久隆・教久の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に11通掲載に付省略。

[179] 西島清浦の書簡

西島清浦は江戸後期・明治期の画家。文政11

年長州長門に生れる。広瀬淡窓・旭荘に学ぶ。幕末尊皇攘夷の運動に加わり、晩年木戸孝允邸にて画業に専念。明治45年没。享年85。(1828-1912)

1 明治 年4月7日 (2360)

春暖相催遊歩好時節ニ候処、益御壮健可被成御坐珍重奉賀候、扱先日以書状御願申上候大島似水と申人御診察之儀遠方殊御多忙中恐入候へ共、病人も是非々々御診察御願申度日々御待申上候趣ニ候間何卒御差繰被成下、近日御貴臨被成下候様再応小生へ相願申候間、乍憚宜御聞濟被下候様奉懇願上候、以参可申上候へ共御多忙中返て御妨と差控申候、幾回々々御一診之儀奉願上候、恐々頓首

四月七日

西島青浦

池田国手 梧下

尚々本文申上候通病人殊ノ外御待申上候由ニ付呉々御診察伏奉願上候

[180] 西村茂樹の書簡

西村茂樹は明治期の啓蒙思想家。茂樹の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に4通掲載に付省略。

[181] 新田忠純^{ただずみ}の書簡

新田忠純は武家華族。忠純の書簡は日本医史学雑誌第58巻第1号に1通掲載に付省略。

[182] 乃木希典^{まれすけ}の書簡

乃木希典は明治期の陸軍軍人。希典の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に1通掲載に付省略。

[183] 野口常共の書簡

野口常共は明治期官僚。天保13年肥前土族として生まれる。太政官少書記官。明治14年5月4日没。享年40。(1842-1881)

1 明治 年2月5日 (2377)

拝啓、一太郎義容体思話敷無之ニ付、御繁務中難得御相談候得とも御序も有之候ハ、御来診被成下候義は相叶間敷哉奉歎願候、此段要用迄呈書不一

二月五日 野口常共
池田様 執事
再伸、乍輕微(欠)ニ進呈候、御収掌奉願候

2 明治 年2月21日 (2375)

快晴御同慶奉存候、御用繁中恐入候得とも一兩日中御序も有之候ハ、御来診被下候義は不相叶哉奉願候、小生義透ニ無之ニ付何卒(欠)領掌可被下候、此段御願まで、不備

二月廿一日 野口常共
池田先生 執事
再伸、愚息ニは大分容体宜敷相覚候

3 明治 年9月10日 (2376)

(端裏書)池田謙齋様 御手展 野口常共
拜啓、小生儀一昨日入浴後別に加減宜様相覚候ニ付近辺散歩いたし候処、熱氣も消除腹部モ大分復常、便ハ平生之通ニて一度通シ申候、世悴モ少々宜敷方ニ相赴き申候、便ハ一日ニ三度ニて御坐候、右之容体ニ付明日よりも発程仕度候間、世悴分服薬三十日量御調剤ハ相叶間敷哉千万奉願候、此段御依頼不

九月十日
追て別封当分寸謝御笑留可被下候
(用箋に世界地図あり)

4 明治 年10月15日 (2379)

愈御清福奉賀候、然ハ世悴過日来風邪ニて臥辱御調剤を得、御蔭ニ咳気は減シ候様ニ有之候得とも、尔後熱発消除いたし兼ニ付御繁務中恐入候ヘ共一兩日間御来診被成下度深く奉願候、此段草々なから御依頼迄、不具

十月十五日 野口常共
池田先生 執事

5 明治 年11月17日 (2374)

(封筒表)池田謙齋様 執事
(封筒裏) 野口常共
愈御清祥奉大賀候、然ハ小生容体御蔭ニ漸次復常ニ有之候処、十日計以前感冒之気味相覚、別ニ為差微候ハ無之候得とも時々咳ヲ発シ鼻汁ヤミ不

申、仍て昨日御調剤奉願候処、前御方相戴候ニ付御支無之候ハ、御加減被成下候様奉懇願候、草々不具

十一月十七日 常共
池田先生 執事

6 明治 年1月17日 (2378)

寒威緊厳弥御多祥奉恭賀候、小生儀拜別後去月卅日より此地出立熱海へ滞留撰養罷在候間、大ニ薬効相顕候様相覚申候、然処少々事故有之一昨夜帰京更ニ御一診願受候上、兩三日中又々彼地ニ於て養生仕度候間、甚御繁務中恐入候得とも明日又ハ明後十九日迄之間拙宅辺御序次第午前午後何時ニても可然ニ付暫時御来診奉願上候、此段御依頼草々不具

一月十七日 野口常共
池田様 侍側

[184] 野村素介^{もとすけ}の書簡

野村素介は明治期の教育官僚。素介の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に4通掲載に付省略。

[185] 野村靖^{やすし}の書簡

野村靖は明治期内務・逓信大臣歴任。靖の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に11通掲載に付省略。

[186] 橋本実梁^{さねやま}の書簡

橋本実梁は公家華族。実梁の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に1通掲載に付省略。

[187] 長谷川重信の書簡

長谷川重信は出入りの大工。

1 明治 年7月28日 (2425)

一翰啓上仕候、甚暑之節先以(欠)在御勇健奉恭賀候、借御(欠)請も御完成と奉存候、長々ノ御□(欠)御都合能恐賀ノ至ニ御坐候、当今風入如何御坐候や、御手広ノ御家屋故必定御凌安カルヘク御間ニ依りてハ炎蒸ノ入ルヲ許サレヌ清涼ナル御室も可被為在候、御家根瓦漆喰塗ノ義去年ハ已

ニ冬季ニ向イ候故見合申候、此節ハ家根漆喰ノ工業良時ニ御坐候、第一瓦へ粘着宜く凝固石ノ如ク、乍去職人暑ニ苦ミ申候、来九月中旬迄ナレハ此節ニ劣リ不申惣漆喰ニハ及不申、緊要ノ処丈ケ其頃迄ニ被仰付候様仕度平ラハ軒先キ通リ棟瓦下タ并ニ棟隅棟家根ノ両端シ等にて宜く是等ノ場処ハ大風雨ノ節瓦葺合セより水をつぎ入レ候物ニ御坐候、且瓦ふきを堅固ニ仕候ハ漆喰ぬりノ力ニ御坐候、尊考ニハ過不申候へとも心付キノ假申上候、鄙生義も咯血症五十日間斗も平癒罷在候、当今朝夕喘息気軽キながら不絶起リ痰能ク切レ申候、気力も宜く粗飯も能進ミ申候、惟々力着キ思之外カ埒明キ不申歩行も五六丁ノ処位ニ御坐候、炎暑ノ折柄保護ノミニ注意罷在候、此節医師ノ診察ニハ肺部ハ益宜キ方ニ候由申居候、先ハ此節窺旁前条申上候、御折角御自愛被為在候様是祈候、敬白

七月廿八日

長谷川重信

池田様 侍史

2 明治 年 12 月 8 日 (2426)

甲賀町御建築も追々結構ニ相成申候、何レニ為致長々ニ相成月迫迄工業ノ筈ニ御座候へとも半途仕掛リニ相成御迷惑恐察仕候、近カ頃ハ出廻りも怠リ勝チニ相成下タ町辺二三ノ用事を兼御場処出廻リ候義其都度々々御先方御入念ノ御斟酌を蒙リ候故、近（欠）為差御世話申上ル条件も（欠）殊ニ自分ノ都合ノ節（欠）故決て態々ナル事ハ無（欠）右様御配慮被下候てハ（欠）申上候、尚此上御序ノ（欠）実情乍憚被仰（欠）惟ニ鄙生ノ不叶身分を以（欠）高貴ナル紳士君へ蒙御懇意候段、上ナキ僥倖ニ御坐候条未長ク今日ノ御懇命ニ預リ度、兼てノ情願ニ御坐候へハ何シナリ隨身ノ御用ハ無御遠慮御命シ被下候ハ、大慶仕ル事ニ御坐候、是等素志ノ趣、猶又可然御取成被下置候、難有右之条々乍御面御承諾被成下度伏て奉懇願候、敬白

十二月八日認

長谷川重信

左近允君⁽¹⁾閣下

- (1) 左近允^{きこんのじょう} 左近允景良^{かげよし} 池田謙齋の義母池田久子の弟。

3 明治 年 3 月 3 日 (3160)

舌換

此程ハ遠隔之処態々御来臨御見舞被成下御厚志不浅難有仕合奉存候、殊ニ結構之御菓子御恵投被下、我らニ拜味是又奉厚謝候、其節申上候御二階副柱分別紙注文帳ニ仕立差上候、少シ御模様も換り御二階も広くニ相成候事ゆへ御二階上御間取り杯如何ノ思召や、木寄ハ先下モノ御間トリ同様ニ見做シ見込申て、此柱ノ外ニ庇柱床コ柱杯有之、庇柱ハ勿論四ツ谷丸太面と皮物床コ柱ハ何レカ、皮付物ナラデハ剛クナリ申候、先ヅ本ノ柱が第一にて取レ安からぬ木品ゆへ代価御調ノ上、早く挽立ニ相成候へバ安心ニ御坐候、此注文帳好ノ処得と御覽被下度、若シ図正等ノ御好ナレハ御直シ被下度○印ノロハ前側ゆへ四方正ニいたし度、其他ハ一方二方位ハ少シ板目掛りても如何や、其辺思召不相分故注文ニ省き、登材木やへ御渡ノ節御好ニ相成度、夫レ次第にて代価多分ノ違御坐候、右ノ外造作物木材夫々木品木位御取極ノ上挽立木枯シ不仕てハ先々ノ為メ不宜、分けて榎ハ殊ノ外縮ミ質有之ゆへ椽無長押等入念ノハ小一年枯シ候事ニ御坐候、可成早ク御注文御坐候様仕度

○前文ノ如ク木材ノ用意仕ルニモ、大工方御極メ無之ハ実地ノ相談用意物不都合ニ御坐候、併シ図面斗り御極にて未仕様籠書も出来不申、酒井へ御沙汰其辺伺ヒ々々仕立候様ニ仕度、尚西川役所へ出頭等御見掛ケニ相成候へハ図面御渡シ一応小生へ引合くれ候へハ見込相話シ酒井へ継キ候様ニいたし度、其訳ケハ奥ノ御住居向在来二間ノ御間ヲ以半間シ此度梁間を広く押入杯ノ都合を着置申候、其広ケ候梁間ハ大仕事ニ不致様愚案ノ内も有之、御二階梁ハ柱間皆広く候事ゆへ、切組骨組ニ得と話度ケ条も御坐候

○大工積リハ御造作ハ追て積り候事ニいたし度、此処にてハ素建を急候ゆへ素建より瓦ふき及漆喰ぬりに至ル迄可成内造作ノ外ハ軒樋迄も積込候へハ御費用ノ御目途も立可申、内造作ハ是より先キ図ヲ以御相談、御好ノ程未分ラスゆへ左様ニいたし度候、先ハ取急キ用事迄申上候、敬白

三月三日

重信

左近允様 玉机下

[188] 蜂須賀^{もちあき}茂韶・家扶・家従の書簡

蜂須賀茂韶は旧阿波徳島藩主。茂韶・家扶・家従の書簡は日本医史学雑誌第55巻第4号に11通掲載に付省略。

[189] 服部^{いちぞう}一三の書簡

服部一三は明治期教育官僚・政治家。一三の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』上巻に4通掲載に付省略。

[190] 花房^{よしもと}義質・福太郎の書簡

花房義質は明治期の外交官。福太郎は義質の孫。義質、福太郎の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に3通掲載に付省略。

[191] 浜尾^{あらた}新の書簡

浜尾新は明治期の教育行政官。新の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に23通、日本医史学雑誌第57巻第4号に1通掲載に付省略。

[192] 林 厚徳の書簡

林 厚徳は明治期の官僚。文政11年阿波国に生まれる。浜松県令・東京府京橋区・深川区長歴任。明治23年3月2日没。享年63。(1828-1890)

1 明治 年10月25日 (2480)
宿公義益御清迪奉賀候、今朝ハ賤价へ御多念之御申聞承領、陳此野紙従旧里取寄候間、乍菲薄拝呈御祭留被下候ハ、幸甚々々、他は期拜芝候、頓首
十月廿五日 林 厚徳
池田賢台 侍右

[193] 林 友幸^{ともゆき}の書簡

林 友幸は明治期の官僚・政治家。友幸の書簡は日本医史学雑誌第57巻第4号に4通掲載に付省略。

[194] 原 保太郎の書簡

原 保太郎は明治期の官僚。弘化4年丹波に生まれる。山口・福島県知事・農務省山林局長歴任。山口県知事の時、李鴻章狙撃事件の為免職と

なる。

1 明治 年4月7日 (2514)
拜啓、愈御清穆可有之奉賀候、陳ハ小生在京中病氣ニ罹り御高配ヲ以快氣ニ趣キ過ル二日無恙帰県致候、右不取敢拝謝申上度如此ニ候、敬具
四月七日 原 保太郎
池田謙齋^(ママ)殿

[195] 檜垣直枝の書簡

檜垣直枝は明治期の官僚。天保10年土佐に生まれる。内務省参事官・沖縄県書記官歴任。明治27年10月4日没。享年56。(1839-1894)

1 明治 年12月16日 (2530)
(前欠)

体温
前七時 後一時 後五時 同十時
十二月十四日
三八ノ四 三七ノ三 三八ノ七 三九ノ七
同 十五日
三八ノ六 三七ノ一 三七ノ三
同 十六日
三七ノ五

一昨十四日ハ最前ノ散葉ヲ服用致候得共、夜中ニ至リテハ大ヒニ体温ヲ増進致シ候、昨晚ハ敢テ発熱セントモ不覚申候、過日御書付被下候(ペプシネ入マルチエクス)ハ別瓶ニ相違無御坐候哉、御鑑定被下度候

十二月十六日 檜垣

2 明治 年12月20日 (3270)
萩原三圭母義久々病氣之処、養生不相叶過ル十七日病死仕候間、此段為御知申上候也

十二月廿日 檜垣直枝
池田謙齋^(ママ)様

二白、三圭義ハ京都府在勤ニ候処、本日神辺港出帆之趣ニ付、帰京次第埋葬執行候間添て申上候也

[196] 東園^{もとなる}基愛の書簡

東園基愛は公家華族。基愛の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に1通掲載に付省略。

[197] 東伏見宮家扶・家従の書簡

東伏見宮家は皇族。家扶・家従の書簡は日本医史学雑誌第54巻第1号に5通掲載に付省略。

[198] 樋口忠助の書簡

樋口忠助は甲州出身。明治15年熱海にて初の洋式ホテルを開業した。

1 明治 年1月1日 (2536)

拜呈、改年之玉慶御芽出度御鶴齡可被遊御坐恐悦不斜候、弊家客年之御助情ヲ蒙り無限仕合ニ奉存候、乍憚御休神奉願上候、尚一層勉勵仕度候ニ付如旧御尊来御湯治之程伏テ奉希願上候、先ハ御歳甫御祝詞迄御奉（欠）申上候、匆々頓首

（欠）一月一日 樋口忠助 謹白 印

池田様 奉呈

[199] 樋口正峻の書簡

樋口正峻は御造営事務局に勤める。

1 明治 年12月19日 (2538)

前略御高免、偕は先頃杉（欠）長へ御依頼之沓祓石当局細工場迄到着候ニ付、該石代及運搬費等別書之金員支払可致候間御渡被下度、追て彫刻出来次第御送付可致候也

十二月十九日 御造営事務局 樋口正峻

池田謙齋殿 執事御中

2 明治 年12月24日 (2539)

前略、過日沓祓石及運搬代共調書差出置候処、当節支払之都合も有之候間、御差支も無之候ハ、此者へ御渡相成様致度、此段申進候也

十二月廿四日 御造営事務局 樋口正峻

追て若御他行中ニ候ハ、御手数ニは（欠）共明日ニても事務（欠）迄御差出之様願（欠）敷哉、是又申上置候也

（欠）様 執事御中

[200] 土方^{ひじかた}久元の書簡

土方久元は明治期の政治家。久元の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』上巻に11通、日本医史学雑誌第57巻第4号に2通掲載に付省略。

[201] 尾藤文助の書簡

尾藤文助は東大医学部監事。

1 明治 年10月24日 (2542)

別紙三ヶ條犬飼殿磨⁽¹⁾殿迄建言仕候、当七月四日旧豊前中津藩三輪光五郎⁽²⁾当部御雇監事ニ被命、月給三拾円被下候、私儀光五郎同藩ニ御座候、明治八年二月十日本部御雇書記被命、当時私光五郎同様奉職仕居候、奉務上之事光五郎ト更無区別ト奉存候、然ルニ光五郎ト私トハ意外之月給ニ相成、乍恐不公平ト奉存候、何卒光五郎同様之御扱ニ不相成候共何ト歎廉ヲ御附被下候儀ニは相成間敷哉、此段奉歎願候也

近藤良薫親族

当時 東京大学医学部監事相勤候

十月廿四日

尾藤文助 印

(1) 犬飼殿磨 天保13年尾張藩に生まれる。明治8年文部大録。14年頃東京裁判所判事に転ずる。明治28年没。享年54。（1842-1895）

(2) 三輪光五郎 明治14年東大教務課員兼諮詢会の医学部監事。15年宮内省御用掛4等属。

[202] 平尾^{しやうぞう}録蔵の書簡

平尾録蔵は美濃国岩村藩士。下田歌子（長女）の父。

1 明治 年11月5日 (2557)

先生奉始皆々様御安泰被為入奉恐悦候、然は歌子⁽¹⁾事以御蔭病氣追々快、今日出勤仕候間、右御礼御吹聴申上度、乍略義以書中各様ニ申上候間、宜敷被仰上可被下候、以上

十一月五日

平尾録蔵

池田先生 御弟子中様

尚々歌子事、先生御承知被為在候通り未ダ全快

と申ニまいり兼、推シテ出勤仕候間何分此上も宜敷奉願度、此段も宜敷御申上ケ可被下候、以上

(1) 下田歌子 明治・大正期の教育者・歌人。安政元年生まれ。明治18年華族学校教授・学習院女学部長歴任。辞任後実践女学校校長。昭和11年没。享年83。(1854-1936)

[203] 平田東助の書簡

平田東助は明治・大正期の官僚政治家。平田東助の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に9通、日本医史学雑誌第57巻第4号に1通掲載に付省略。

[204] 平沼専蔵の書簡

平沼専蔵は幕末・明治期の実業家。天保7年武州飯能に生まれる。慶応元年横浜にて問屋開業。貴族院議員を経て明治35年衆議院議員。明治44年平沼銀行創立。大正2年没。享年78。(1836-1913)

1 明治 年7月10日 (2569)

一翰呈上仕候、倍御安康ニ被成御座奉恐賀候、陳は当春中は愚息参館早速御診察被成下奉多謝候、其后余病ニテ引籠リ候ニ付、御無音段平ニ御有免可被下候、孰不日参堂万々御詫可申上候、就ては甚些少之至ニ候得共、右謝義とシテ金五円呈上仕候間、可然御執達可被下候、且御薬料は何程ニ候哉、此者え被仰聞度候、先は右御礼旁如斯ニ御坐候、頓首

七月十日 平沼専蔵
池田謙齋様 薬局御中

[205] フェノロサの書簡

フェノロサは明治11年米国より来日、日本美術史研究の創始者。フェノロサの書簡は日本医史

学雑誌第61巻第2号に1通、有賀長雄の書簡に関連して掲載に付省略。

[206] 福島柳圃の書簡

福島柳圃は江戸後期・明治期の画家。文政3年生まれ、明治22年10月25日没。享年70。(1820-1889)

1 明治 年3月28日 (2582)

(封筒表) 池田大先生 侍者御中 福島柳圃 拜
(封筒裏) 封 三月廿八日
記

一、金 四円五十銭

右為拙画潤筆御恵投被下難有落手仕候、尤当月廿日頃ニハ相認以郵便可申上御約束之処、十六日より風邪にて平臥罷在少々宜敷候ニ付髭ヲ剃り候ニ付、猶復邪氣相添其後打続平臥仕候仕合、尤近日快氣可仕間、左候ハ、早々相認可申上候、失敬之段御海恕可被下候、乍失敬御老母様えも御無音申上候段奉謝候、早々頓首

三月念八日

[主要参考文献]

- 朝日新聞社編『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社 1994年11月30日発行
池田文書研究会編『東大医学部初代総理池田謙齋』上・下巻思文閣出版 2007年2月25日発行
日本歴史学会編『明治維新人名辞典』吉川弘文館 1981年9月10日発行
大植四郎編『明治過去帳』東京美術 1971年11月20日発行
稲村徹元・井門寛・丸山信編『大正過去帳』東京美術 1973年5月15日発行
日本医史学雑誌第54巻第1号 2008年3月発行
日本医史学雑誌第54巻第4号 2008年12月発行
日本医史学雑誌第55巻第4号 2009年12月発行
日本医史学雑誌第57巻第3号 2011年9月発行
日本医史学雑誌第57巻第4号 2011年12月発行
日本医史学雑誌第58巻第1号 2012年3月発行
日本医史学雑誌第61巻第2号 2015年6月発行